

GOD WITH US

Part 10: EARLY LETTERS

Message 14 – Romans

Growing as a Child of God

Romans 6 - 8

神はわれらと共に

パート 10：初期の手紙

第 14 メッセージ-ローマ人

神の子として成長する

ローマ人への手紙第 6-8 章

はじめに

すべての罪（過去の罪、現在の罪、未来の罪）をお赦しくださり、神の愛とあわれみの御業によって、神に対して義と認められる！これが驚くべき恵みです！これこそ神の子とされる道です。では、神の子として成長することについてはどうでしょうか？キリストの様に変わられることについてはどうでしょうか？ローマ人への手紙第 6-8 章は、新約聖書のあらゆる箇所で見られる聖化についての教義（神が私たちを「清め」、赦された子供として「成長」させてくださる過程）の最も全般的な議論です。

「義と認められる」ことは、罪の罰からの解放を対処します（ローマ人 1-5）。「聖化」は、罪の力からの解放を対処します（ローマ人 6-8）。このように、神のすべての子どもたちにとって、霊的成熟への旅路において大変重要な部分です。

もはや罪の奴隷ではない：6：1-23

イエス様が十字架上で死なれ、死からよみがえられたとき、私たちの罪から来る報酬を支払ってくださっただけでなく、私たちの人生における罪の力を打ち砕かれました。したがって、神の恵みは、私たちに罪へ走るための無料のチケットではなく、私たちに押し寄せる罪の要求に対し「NO!」と言える新しい力を与えます。

6:1 では、わたしたちは、なんと言おうか。恵みが増し加わるために、罪にとどまるべきであろうか。6:2 断じてそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なお、その中に生きておれるだろうか。6:3 それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。6:4 すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。（ローマ人 6：1－4）

6:6 わたしたちは、この事を知っている。わたしたちの内の古き人はキリストと共に十字架につけられた。それは、この罪

のからだが減び、わたしたちがもはや、罪の奴隷となること
がないためである。(ローマ人6:6)

6:11 このように、あなたがた自身も、罪に対して死んだ者で
あり、キリスト・イエスにあって神に生きている者であるこ
とを、認むべきである。(ローマ人6:11)

私の人生の権威の構造に、私の「オペレーティングシステ
ム」に変化が起きました。罪を克服し、神に喜ばれる人生
を歩む能力が新しいレベルに達しました。御霊が私の人生に
入ってくださる前は、私は罪の奴隷でしたが、御霊が私の新
しい主になってくださって以来、罪の誘惑に『No』と言い、
内在してくださる御霊の促しに『Yes』とすることができ
るようになりました。

6:12 だから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだ
ねて、その情欲に従わせることをせず、6:13 また、あなたが
たの肢体を不義の武器として罪にささげてはならない。むしろ、
死人の中から生かされた者として、自分自身を神にささ
げ、自分の肢体を義の武器として神にささげるがよい。6:14
なぜなら、あなたがたは律法の下にあるのではなく、恵みの
下にあるので、罪に支配されることはないからである。

6:15 それでは、どうなのか。律法の下ではなく、恵みの下
にあるからといって、わたしたちは罪を犯すべきであらう
か。断じてそうではない。(ローマ人6:12-15)

6:17 しかし、神は感謝すべきかな。あなたがたは罪の僕であ
ったが、伝えられた教の基準に心から服従して、6:18 罪から
解放され、義の僕となった。(ローマ人6:17, 18)

十字架上では、非常に多くの、私たちには理解し難い驚く
べき取引がなされました。キリストは、私たちの罪のために
死んでくださいました。しかし、キリストはまた、私たちが
罪の力に対して「死ぬ」ことが可能となるために死んでくだ
さいました。ある意味、私たちはキリストとともに死に、埋
葬(洗礼)されました。その結果、罪に対して「No」、神に対
して「Yes」と言うことができます。「神のご栄光のためにふ
さわしいことをするための道具として全身を用いていただ
く」ことができます。今、私は神の奴隷として、自由に生き
ることができます。朝、目を覚ましたら、『父なる神様、主
なる神様、私は、今日もあなたのお目的のために用いていた
だくためにここにいます。私の思いと心と目と手足とすべて
の所有物をお用いになり、ともに生きてください。今日、あ
なたの御心を行わせてください。』という祈りをささげます。

内なる戦いの継続：7：1-25

ローマ人への手紙第7章とガラテヤ人への手紙第5章は、
古い罪の性質と内に住まれる御霊との間で、私たちの内
には、引き続き戦いが続いていることを明らかにしています。

ローマ人への手紙第7章では、パウロは自分を例にして、古い罪のパターンを克服するために、どのように苦労したかを説明しています。しかし、パウロ自身の罪と葛藤とその解決策（御霊の力の内に歩む、第8章）に入る前に、「もっともっと努力して」律法に従うことは罪を克服する方法ではないことを思い出させてくれます。

律法は答えではない：7：1-13

7:4 わたしの兄弟たちよ。このように、あなたがたも、キリストのからだをとおして、律法に対して死んだのである。それは、あなたがたが他の人、すなわち、死人の中からよみがえられたかたのものとなり、こうして、わたしたちが神のために実を結ぶに至るためなのである。7:5 というのは、わたしたちが肉にあった時には、律法による罪の欲情が、死のために実を結ばせようとして、わたしたちの肢体のうちに働いていた。7:6 しかし今は、わたしたちをつないでいたものに対して死んだので、わたしたちは律法から解放され、その結果、古い文字によってではなく、新しい霊によって仕えているのである。（ローマ人7：4－6）

上記の下線部は、ローマ人への手紙第7、8章の素晴らしい要約です。信者として成長しようとするために、間違っただけの方法と正しい方法があります。間違っただけの方法は、自力で神の律

法に従おうと努力する方法です。正しい方法は、新しい方法で、神を私たちの内にお招きし、ともに生きていただき、神に協力して内側から神聖ないのちを生み出していただく方法です。

自分の人格の何かを変えようとするときに、よく、セルフヘルプの本（自助書）を手にとることがあります。これらの書物には、役立つ思想が含まれていることもありますが、通常、目標を達成するためには意志力や前向きな思考の概念に依存します。神の方法は異なります。神は、私たちが自力で、そのような書物に集められた規律に頼ることは求めておられません。神は、「御霊による新しい方法で」、御霊に導かれ、御霊に強められる人生を歩むことを求めておられます。パウロは、これについて第8章において、より詳細に議論しますが、とりあえず次のことを自問をしてみてください。私は、自己向上のために、内在してくださる神の御霊の力に頼るのではなく、自力の努力によって行動しようとしているのでしょうか？「御霊と歩調を合わせる」のではなく、「規律の書簡」（すべきこととすべきでないことのリスト）に従っているのでしょうか？

私の内なる戦い：7：7-25

次にパウロは、すべての信者が直面する罪との真の戦いについて説明します。特に私たちが自力で神の律法を守ろうとするときについて説明します。神の律法は、私たちが聖別するための道具として機能するのではなく、私たちの罪を示すための鏡として機能し、神の助けの必要性を示します（ローマ人7：7-13）。パウロは、自身の罪の性質が、神の律法を守るために、もっともっと努力を重ね続けることによって、いかに自身を打ち負かし続けたかを説明します。

7:14 わたしたちは、律法は靈的なものであると知っている。しかし、わたしは肉につける者であって、罪の下に売られているのである。**7:15** わたしは自分のしていることが、わからない。なぜなら、わたしは自分の欲する事は行わず、かえって自分の憎む事をしているからである。**7:16** もし、自分の欲しない事をしてしているとすれば、わたしは律法が良いものであることを承認していることになる。**7:17** そこで、この事をしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に宿っている罪である。**7:18** わたしの内に、すなわち、わたしの肉の内には、善なるものが宿っていないことを、わたしは知っている。なぜなら、善をしようとする意志は、自分にあるが、それをする力がないからである。**7:19** すなわち、わたしの欲している善はしないで、欲していない悪は、これを行って

る。**7:20** もし、欲しないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に宿っている罪である。**7:21** そこで、善をしようと欲しているわたしに、悪がはいり込んでいるという法則があるのを見る。**7:22** すなわち、わたしは、内なる人としては神の律法を喜んでいますが、**7:23** わたしの肢体には別の律法があって、わたしの心の法則に対して戦いをいどみ、そして、肢体に存在する罪の法則の中に、わたしをとりこにしているのを見る。（ローマ人7：14－23）

神の子としても、私には、立ち上がって自分を支配し、律法（神のみ言）が言うこととは反対のことをさせたい罪の性質があります。パウロは、この自己反省の部分を助けを求める叫びの祈りで締めくくっています。

7:24 わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だけれど、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。（ローマ人7：24）

「英： misery loves company（日： 惨めな人々は他人の不幸を好む。）」
と言いますが、使徒パウロ自身が、憎むことを行っていたことを知って、どのように感じられますか。否定的で自己破壊的なパターンを克服するために葛藤しておられ孤独に感じてもらったら、ローマ人への手紙第7章をお読みください。この葛藤の只中にあるあなたは、決してひとりではないこと

を、あなたは正常であることを確認してください。次に、ローマ人への手紙第 8 章も読み続けられることも重要です。パウロは、自分の成長に欠かせないと考えた、戦いに勝つための道を説明しています。ローマ人 7 章から慰めを得、ローマ 8 章から希望を得られるでしょう！

咎めなし：8：1-4

イエス・キリストは、私の罪から来る報酬を支払ってくださいました。しかし、どのようにして進行中の罪の力に対して勝利を得させてくださるのでしょうか？ 御霊の人格と働きがローマ人への手紙第 8 章の主な主題です。しかし、その前に、罪を克服するために奮闘しているときでさえ、私たちは父によって咎められることは決してないことをパウロは思い出させてくれています！

8:1 こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。**8:2** なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。**8:3** 律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。（ローマ人 8：1－3）

キリストが、私たちの罪の咎めを完全に受けてくださったので、私たちは慰めと勇気をもって、恥じることなく神のみ前に、また、他の人々の前に生きることができるのです。特にローマ人への手紙第 7 章のような、内なる闘いの只中にある時、キリストにおける私たちの安全を思い出す必要があります！ 打ちのめされるような時もありますが、それでも、私たちに対する神の愛は変わらないという強い確信を持って前進する必要があります。神と私たちの位置は、決して変わりません。私たちは神の驚くべき愛の内に安全です。そして、神が私たちの内に勝つ力を備えてくださったと確信することができます。

あなた自身の良心による非難や嘲笑の声が聞こえてくるとき、または咎めの名人である邪悪な者の声が聞こえてくるときは、聖書を開き、ローマ人への手紙第 8 章の冒頭の数節を読んでください。第一ヨハネ第 2 章 1、2 節も読んでください。さらなる励ましについては、ゼカリヤ書第 3 章 1-5 節をお読みください。神の子として、天におられる父なる神があなたを「訓育」し、「訓練」してくださることは確かですが、決してあなたを咎められることはありません（神は最愛の御子の上にすべての咎めを置かれたからです）。特に最悪な日にこそ、これらの確かなみ言に聞く必要があります。

御霊の力の内に歩む：8：5-17

8:5 なぜなら、肉に従う者は肉のことを思い、霊に従う者は霊のことを思うからである。8:6 肉の思いは死であるが、霊の思いは、いのちと平安とである。8:7 なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。8:8 また、肉にある者は、神を喜ばせることができない。8:9 しかし、神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におるのではなく、霊におるのである。もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない。8:10 もし、キリストがあなたがたの内におられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに生きているのである。8:11 もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださいであろう。

8:12 それゆえに、兄弟たちよ。わたしたちは、果すべき責任を負っている者であるが、肉に従って生きる責任を肉に対して負っているのではない。8:13 なぜなら、もし、肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬ外はないからである。しかし、霊によってからだの働きを殺すなら、あなたがたは生き

るであろう。8:14 すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。8:15 あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである。8:16 御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さい。8:17 もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。(ローマ人8：5－17)

パウロは、13節に及び、14回も御霊について言及しています。どうやって罪に勝利するのでしょうか？日々、神の御霊の先導と導きと強めを求め、御霊に服従して歩むことによって勝利することができます。自力で神を喜ばせることはできません。神の御霊への服従に歩むことによるのみ、神を喜ばせることができます。(ガラテヤ人への手紙5：16-25のパウロのメッセージです。ローマ人7、8章と並行する重要な箇所です。)

つまり、クリスチャンの人生は、主に降伏する人生であることを意味します。私たちは常に、内在される御霊のお導きと御声と御力に屈服する必要があります。クリスチャン生活は、自分の意志力に頼る生活ではありません。御霊の力に頼る生活です。「8:6 霊の思いは、いのちと平安とである。」(ローマ人8：6)。

聖化の教義に関する重要なポイント：聖化の働きをより深く許せば許すほど、より効果的です。最初のステップは、自分が御霊に導かれることに注意を払う意欲です。あなたが繰り返してしまう罪の問題に気付いたとしましょう（パウロは、自信の人生における貪欲の罪について述べました）。口先で、「貪欲をやめます」と言うだけでは上手くいきませんが、あなたが御霊に罪の 패턴の根源を示していただくよう寄り頼むなら、その繰り返してしまう罪の pattern からの解放へのプロセスに入ることができます（深い聖化）。

私が繰り返してしまう罪からの解放に向けて御霊に寄り頼んできた祈り方は次の通りです。「主よ、なぜ私は反応してしまったのでしょうか？私の内のどのスイッチが押されたのでしょうか？なぜ、そのデリケートな点、傷が私の中にあるのでしょうか？その傷は、どこから始まったのでしょうか？頭をよぎる自分についての嘘をまだ承認してしまっているのでしょうか？どのような誓いを立て、自分を防衛するためにどんな戦略を用いてきたのでしょうか？神のみ言のどの真理を暗唱することによって、神の促しの内に歩み、御霊が私に思いつきさせ、力を与えてくださる生き方が可能になるのでしょうか？

以上のような「氷山下」の質問は、罪の pattern の根源を知るために役立ちます。ローマ人への手紙第 6 章の真理（古い

自分は「死んだ」こと、そして、キリストにある自由の新しい旅路を始めた）を受け、自分の行動と反応（ローマ 7 章）に注意を払い、「罪の咎めなし」に「神の愛」（ローマ 8 章）に生きるとき、それこそが私の人生と行いを真に変えていただく深い聖化です。これが神の霊的成長（聖化）を追求する方法です。

備考：御霊の力の内には歩むことが何を意味するかについての追加の解説については、牧師のノート（英）1200～1204 ページガラテヤ人への手紙の第 2 メッセージ、第 5-6 章：御霊の内には歩むことを擁護してをご参照ください。

最終目的地：8：18-25

救いとは、義と認められる、聖化、栄光の 3 つの部分が一セットとなり、私たちにもたらされます。救いのそれぞれの側面は、私たちの罪の問題を異なる方法で扱います。

義と認められる：罪の罰から救われています。

聖化：罪の力から救われています。

栄光：罪の存在から救われています。

義と認められることと栄光は、ある時点で起こります。それらは瞬間的に起こります。一方、聖化は徐々に起こります。義と認められ、栄光を受けるまでの間、つまり、人がイエス様に「Yes」と言った瞬間と、イエス様がその人を天に召

される瞬間までの間に起こります。栄光とは、神の終焉です。神は、私たちが神のご栄光の中で、永遠に属する場所に連れ戻したいと願っておられます。これはパウロが次に記していることです。

8:18 わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。**8:19** 被造物は、実に、切なる思いで神の子たちの出現を待ち望んでいる。**8:20** なぜなら、被造物が虚無に服したのは、自分の意志によるのではなく、服従させたかたによるのであり、**8:21** かつ、被造物自身にも、滅びのなわめから解放されて、神の子たちの栄光の自由に入る望みが残されているからである。**8:22** 実に、被造物全体が、今に至るまで、共にうめき共に産みの苦しみを続けていることを、わたしたちは知っている。**8:23** それだけではなく、御霊の最初の実を持っているわたしたち自身も、心の内でうめきながら、子たる身分を授けられること、すなわち、からだのあがなわれることを待ち望んでいる。（ローマ人 8：18－23）

神は御子、イエス・キリストの死を通して、私たちを買って取っていただきました。私たちが神のものであると宣言してくださいました。罪の汚染と力から、私たちが清めるために働いてくださっています。私たちが新しい人としてくださっています。神は、私たちが世に披露したいと願っておられ、

最終的には、永遠に神と一緒にいられるように天に連れて帰りたいと願っておられます。栄光は人間だけでなく、全被造物も」待ち望んでいます。いつの日か、**私たちは罪のない世界、神のもとに帰ります！**これは私たちへの神の約束です。

この永遠の栄光の確信は、あなたの人生に希望と保証をもたらしますか？ 誰かがかつて言いました：あなたは死ぬ準備が整うまで、生きる準備は整いません。その声明には真実があると思います。永遠の栄光の希望は、この人生の戦いの只中、パウロを力強く下支えしました。「**8:18** 今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。」（ローマ人 **8:18**）。「I Can Only Imagine」という歌曲をお聴きください。あなたが経験しているものすべてに対するあなたの見方が変わるでしょう！

旅路：8：26-30

ローマ人第8章が結論に近づくとき、私たちが最終的に帰る家に向かって神と共に旅するとき確信できることがいくつかあるとパウロは言います。

1. 決して一人ではない。歩みの一步一步において、助け人がついておられるので、一歩たりとも、ひとりで踏む必要はありません。

8:26 御霊もまた同じように、弱いわたしたちを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。 **8:27** そして、人の心を探り知るかたは、御霊の思うところがなんであるかを知っておられる。なぜなら、御霊は、聖徒のために、神の御旨にかなうとりなしをして下さるからである。
(ローマ人 8 : 26, 27)

御霊は私たちと共にいてくださり、すべての弱さを強めてくださいます。パウロは、例として祈りの問題を取り上げます。頻繁に、神が私たちにどのように祈ってほしいと願っておられるかわかりませんが、御霊自らが私たちを助けてくださいます。御霊は私たちの考えや懸念をとりなし、私たちのために言葉にするには深すぎるうめき声（文字通り、「言葉でないうめき声」）でとりなしてくださいます。御父は御霊がうめいていることを正確に知っておられます。だから、何を祈ればいいのかわからないときは、とにかく祈ってください。

2. 神に間違いはない。 神は、この旅路が私に投げかけるすべてを用いて、良い結果のために、それらとともに織り込まれます。よりイエス様に似たものへと変えてくださるために。何に直面しても、最終的にイエス様に似た者へと変えてくださるためです。創世記第 1 章 26,27 節は、神が人を「神

のかたちとして」または「似せて」人間を創造されたこと言っています。私たちが人生とその多くの状況を歩みぬくとき、神は御子イエスに似た者へと私たちを再創造してくださっています。

8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。 **8:29** 神はあらかじめ知っておられる者たちを、更に御子のかたちに似たものとしようとして、あらかじめ定めて下さった。それは、御子を多くの兄弟の中で長子とならせるためであった。(ローマ人 8 : 28, 29)

3. 仕事の完了。 神は、私たちの内に始められた働きを完了して下さることを約束されます。神は中途半端な仕事をなさいません。神が義とされたすべての者たちに、更に栄光を与えてくださいます。神は決して私のことを諦められることはありません！

8:30 そして、あらかじめ定めた者たちを更に召し、召した者たちを更に義とし、義とした者たちには、更に栄光を与えて下さったのである。(ローマ人 8 : 30)

4. キリストにある保障。 私たちがゴールに届くまで、御子を与えてくださった神様が私たちの見方でいてくださる。

8:31 それでは、これらの事について、なんと言おうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。 **8:32** ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか。 **8:33** だれが、神の選ばれた者たちを訴えるのか。神は彼らを義とされるのである。 **8:34** だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。(ローマ人8：31－34)

5. 分離なし。どんな被造物も、神の愛から私たちを切り離すことはできません。

8:35 だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。 **8:36** 「わたしたちはあなたのために終日、死に定められており、ほふられる羊のように見られている」と書いてあるとおりである。 **8:37** しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。 **8:38** わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のもも将来のもも、力あるものも、 **8:39** 高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。(ローマ人8：35－39)

ローマ人への手紙第1章は、私たちの根本的な問題は神からの分離であったと述べています。そして、ここで、二度と神から離れることができないという山頂に達しました。神の愛から離れることが可能かどうか疑問に思われるかもしれませんが、私たち一人一人が「創造されたもの」または存在であることを忘れないでください。イエス様は、ヨハネの福音書第10章27-30節で、イエス様の羊は、イエス様と天の父の御手にしっかりと留められており、誰にも彼らを奪うことはできないと宣言されました。イエス様の羊たちは、永遠に安全です。ローマ人への手紙でも同じメッセージを繰り返しています。神はイエス様を通して、その分離を永久に埋めてくださいました。今、私は神と和解しています。変えられる過程にあり、また、栄光への旅路を歩む、赦された罪人です。その恵みを私から取り除いたり、神の偉大な愛のご計画から私を引き離すことはできません。実に驚くばかりの恵みです！どうぞじっくりと神に感謝をささげ、あなたのいのちをもって神をほめたたえましょう。

パウロが熱心に、恥じとせず、福音を全世界に伝える義務感に満ちていたのも当然です。皆に聞くチャンスを与えたかったのも当然です。パウロは、神の福音を受け入れるすべての人、ユダヤ人、ギリシャ人、老若男女、奴隷または自由な者たちが知るべき「救いを得させる神の力」(ローマ人1:16)のニュースを知っていたからです。